

株式会社カワグチマック工業

2023年度 環境経営レポート

(対象期間:2023年4月～2024年3月)

発行日: 2024年6月5日
改訂日: 2024年7月5日

ごあいさつ

株式会社カワグチマック工業は、段ボールケースを製造・販売する企業です。”私たちは物流のプロとして「心の通う梱包」をモットーとし、昭和44年の創業以来、多くのお客様から絶大な信頼とご支援を賜りながら堅実な経営を営み、お陰様で半世紀を越すことが出来ました。

この度当社は、エコアクション21に基づく環境経営システムを構築し運用開始することによって、地球環境に優しい企業として、新たな一歩を踏み出しました。

これを全社員に周知徹底し、環境意識を高め、継続的に環境負荷の低減に取り組んで行くことを宣言します。

環境経営方針

当社は、段ボール箱の製造・販売を主とする事業活動において、再生資源材料を積極的に利用すること、廃段ボール箱および材料の切りくずをリサイクルすることにより、環境負荷の低減を図りこれを継続的に改善することを通じ、全社一丸となって自主的・積極的に、環境への取組を推進します。

1. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
2. 二酸化炭素排出量の削減を推進します(電気、ガソリン、軽油)。
環境負荷の低い営業車, 配送車の使用を推進します。
3. 廃棄物排出量の削減及び廃棄物の再生利用を推進します。
4. 水道使用量の削減を推進します。
5. 環境に配慮した製品(またはサービス)の製造及び販売を推進します。
6. 本方針を全従業員に周知徹底します。

制定日: 2014年6月11日

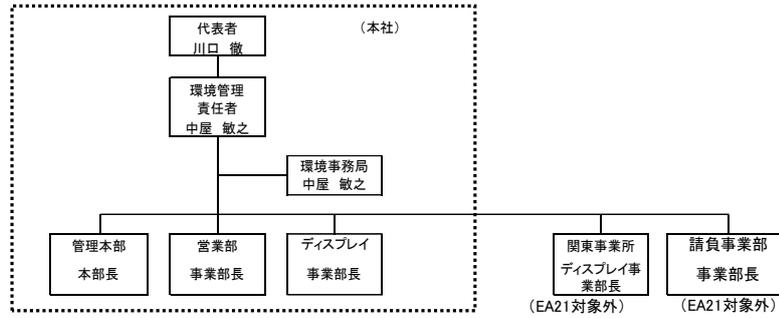
改定日: 2019年7月3日

代表取締役 川口 徹

□組織の概要

- (1) 名称及び代表者名
株式会社カワグチマック工業
代表取締役 川口 徹
- (2) 所在地
本社 〒660-0833 兵庫県尼崎市南初島町12番9号
関東事業所 〒350-1165 埼玉県川越市南台1-3-3
ダイナパック(株)川越事業所内
請負事業 〒661-0001 兵庫県尼崎市塚口本町5丁目3-1
ヤンマー(株)塚口工場内作業所
〒660-0801 兵庫県尼崎市長洲東通1-1-1
ヤンマー株式会社尼崎工場内作業所
- (3) 環境管理責任者及び担当者の氏名・連絡先
責任者 管理本部長 中屋 敏之 [TEL:06-6488-6312](tel:06-6488-6312) [FAX:06-6488-1484](tel:06-6488-1484)
担当者 E-Mail: myoi@kawaguchi-mac.co.jp
- (4) 事業内容
段ボールケースの企画・製造・販売
イベントブース・ディスプレイ等の企画・製造
各種包装資材販売
梱包・倉庫内作業(アウトソーシング)請負
- (5) 事業の規模
売上金額 1,278百万円(令和5年度実績)
ダンボール製品生産量 2,304,104 m²(令和5年度実績)
- | | 本社・工場 | 関東事業所 | 請負 | 合計 |
|-------|---------------------|-----------------|-----------------|---------------------|
| 従業員 | 48 | 3 | 44 | 95 |
| 延べ床面積 | 1,303m ² | -m ² | -m ² | 1,303m ² |
- (6) 事業年度 3月21日～翌年3月20日
- (7) 認証・登録の対象範囲
登録組織名: 株式会社カワグチマック工業
対象事業所: 本社
- 活動: 段ボールケースの製造・販売
イベントブース・ディスプレイ等の企画・製造
各種包装資材販売
- 対象外: 梱包・倉庫内作業(アウトソーシング)請負
(ヤンマー(株)塚口工場、尼崎工場)・・・先方のEMSの下での活動
関東事業所(ダイナパック(株)川越工場)・・・先方のEMSの下での活動

(8) 実施体制



	役割・責任・権限
代表者(社長)	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営に関する統括責任 環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備 環境管理責任者を任命 経営の課題とチャンスの整理と明確化 環境経営方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 環境経営目標・環境経営計画書を承認 代表者による全体の評価と見直しを実施 環境経営レポートの承認
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムの構築、実施、管理、 環境関連法規制等の取りまとめ表を承認 環境経営目標・環境経営計画書を確認 環境関連の外部コミュニケーションの窓口 緊急事態対応手順のテスト、訓練の指導及び総括 環境経営の取組結果を代表者へ報告 環境経営レポートの確認
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> 環境管理責任者の補佐 従業員への環境経営方針の周知 環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 環境経営目標・環境経営計画書原案の作成 環境経営の実績集計 環境関連法規制等取りまとめ表の作成 環境関連法規制等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 従業員に対する教育訓練の実施 特定された項目の手順書作成 特定された緊急事態への対応のための手順書作成 緊急事態対応手順のテスト、訓練を実施、記録の作成 環境経営レポートの作成、公開(事務所への備付けと地域事務局への送付)
部門長	<ul style="list-style-type: none"> 自部門における環境経営システムの実施 自部門に関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告 特定された項目の運用管理 自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 決められたことを守り、自主的・積極的に環境経営へ参加

ロアクセス



□主な環境負荷の実績

項目	単位	2020年度	2021年度	2022年度 基準年度	2023年度
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	144,181	131,685	129,809	137,053
電力	kWh	186,153	165,059	161,424	176,080
ガソリン	L	4,903	4,730	5,353	5,472
軽油	L	16,944	16,142	15,785	15,810
LPG	kg	155	144	157	153
廃棄物排出量					
一般廃棄物	kg	2,835	2,613	2,162	1,038
産業廃棄物	トン	2.28	3.74	7.81	10.32
総排水量	m ³	632	647	694	683

(注) PRTR法に該当する化学物質は使用していません。

□環境経営目標及びその実績

(1)目標

項目	年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
		基準年度			
I. 二酸化炭素 排出量削減	kg-CO ₂	129,338	128,045	126,751	125,458
	対基準		△1%	△2%	△3%
電力使用量削減	kWh	161,424	159,810	158,196	156,581
	kg-CO ₂	76,192	75,430	74,668	73,906
ガソリン 使用量削減	L	5,353	5,300	5,246	5,193
	kg-CO ₂	12,420	12,295	12,171	12,047
軽油 使用量削減	L	15,785	15,627	15,469	15,311
	kg-CO ₂	40,725	40,318	39,911	39,504
II. 廃棄物排出量					
一般廃棄物 削減	kg	2,162	2,140	2,119	2,097
産業廃棄物 削減	トン	7.81	7.73	7.65	7.58
III. 水使用量 削減	m ³	694	687	680	673
IV. 製品への環境配慮 (環境に適したリボード 製品の販売)	円	157,237,784	200,000,000	280,000,000	330,000,000
	対基準		+27%	+78%	+110%

注1) LPGは、微量のため削減目標の二酸化炭素排出量に含めない。

注2) 電力の二酸化炭素排出係数は、2019年度のENEOS(株)公表の“0.472kg-CO₂/kWh”を使用。

注3) 製品への環境配慮は、リボード製品の販売額とする。
リボードとは100%間伐材から生産された紙素材であり木材と同等の強度がありながら重量は5分の1と軽く、ダンボールと同様100%リサイクルが可能な環境配慮型製品です。

(2)実績

項目	年度	基準	実績			
		2022年度	2023年度(2023年4月~2024年3月)			
		実績	目標	実績	達成度	評価
I. 二酸化炭素 排出量削減	kg-CO ₂ 対基準	129,338	128,045	136,594	93.7%	×
			99%	106%		
電力使用量削減	kWh	161,424	159,810	176,080	91%	×
	kg-CO ₂ 対基準	76,192	75,430	83,110		
ガソリン 使用量削減	L	5,353	5,300	5,472	97%	△
	kg-CO ₂ 対基準	12,420	12,295	12,695		
軽油 使用量削減	L	15,785	15,627	15,810	99%	△
	kg-CO ₂ 対基準	40,725	40,318	40,789		
II. 廃棄物排出量						
一般廃棄物 削減	kg 対基準	2,162	2,140	1,038	206%	○
産業廃棄物 削減	トン 対基準	7.81	7.73	10.32	75%	×
III. 水使用量削減	m	694	687	683	101%	○
	対基準		99%	98%		
IV. 製品への環境配慮 (環境に適したリポード 製品の販売)	円	157,237,784	200,000,000	152,340,102	76%	×
	対基準		127%	97%		

注)評価欄にて、○:達成、△:やや未達成(97%~100%未満)、×:未達成

□環境経営計画及び取組結果とその評価、次年度の取組内容

◎よくできた ○まずまずできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取組み計画	達成状況	評価結果と次年度の取組内容
二酸化炭素排出量の削減 (目標未達成)		
下記の電力、ガソリン、軽油の使用量の削減に取り組むことで二酸化炭素排出量を削減する。	○	コロナが5類になり営業活動も正常化したことによるガソリン消費量の増加と大型機械FFGのリニューアルに伴う操作不慣れによる電力消費量の増加によりCO2排出量も5%増加したがコロナ前と比べて18%減少している。全体的に減少傾向にあるので今後も現状のまま経過観察をする。
電力使用量の削減 (目標未達成)		
・空調温度の適正化(冷房28℃暖房20℃)	○	空調温度の適正化はほぼ意識付けができた。屋上の扉を開け階段の通気を良くしたことに加え、コロナ対策で換気をするために窓と扉の開放により館内温度の上昇を抑える事に有益だった。今後細かな温度設定に注意するよう取り組みを継続する。
・照明器具更新(LED化)	◎	事務所および工場の照明をLED化完了('14年3月)工場二階及び会議室のLED化は2018年5月完了。工場2階倉庫のLED化に伴い、人感センサーを設置(2018年5月)不要な照明の消灯の注意喚起を継続する。
・段ボール箱製造でのミスの削減	△	2023年5月に大型機械(FFG)をリニューアルしたが、機械操作に慣れるまで数か月かかりその間機械の稼働時間も増えたこともあり電力の消費量が増加した。最近では機械操作に慣れミスも減少傾向にあるので現状のまま経過観察をする。
ガソリン使用量の削減 (目標未達成)		
・不要なアイドリングストップ	○	保有車両の10台中8台がアイドリングストップ車になった。今後も環境配慮の車両に順次切り替えていく。2024年5月に一台切り替え完了。
・急加速・急停車の防止	◎	普段より安全運転に注意しているのでまずまずできた。今後も注意喚起を行い取り組みを継続する。
・効率的な移動	◎	コロナ5類に伴い営業活動が活発化し飛び込み営業などで訪問件数が16%増加したが、同行営業などで効率化を行いガソリン消費量を微増で抑えることが出来た。今後も継続する。
軽油使用量の削減 (目標未達成)		
・不要なアイドリングストップ	○	もっと意識をしエコドライブを実行する。
・配送方法の変更による使用量削減	◎	トラック2台+外注1台+ハイエース1台が定着し、近場や配送量の少ない所を効率的に回ることにより軽油の使用量の増加を抑えることが出来た。今後も現状を継続する。
・効率的な移動	◎	配送距離は前年度比6%減少したが配送件数が21%増加したため軽油の使用量が若干増加した。今後も配送効率を考えたルート作りを継続する。
一般廃棄物の削減 (目標達成)		
・実態調査	○	2014年7月以降、一般廃棄物の排出量の記録を継続している。
・分別の徹底	○	日常的に一般廃棄物の分別に努めている。また再生可能資源については分別箱を設置した。今後も教育を継続する。
・来年度以降の目標設定	○	正確な排出量を把握しながら、削減に努める。
産業廃棄物の削減 (目標未達成)		
・顧客からの持ち帰りのパレットを削減する。	◎	成果が出ているので取り組みを継続する。
・分別によるリサイクルの推進	×	ディスプレイ事務部の廃棄物の多くが産業廃棄物に回すように指摘されたため増加した。目標値の改定を検討する。
・保管場所の掲示板を設置	◎	設置済みである。
水道水使用量の削減 (目標達成)		
・節水の周知徹底	○	ダンボール生産のロス率低減による印判洗浄の回数減及び節水意識の向上により前年度比2%の節水が出来た。印判洗浄は生産量に比例するのでコントロールできないが節水の意識が上がる活動を継続する。
・節水シールの貼り付けとポスター掲示	○	簡単なポスター等を掲示した結果、意識が向上した。今後も掲示を継続する。
・清掃時・手洗い時の節水	○	より多くの工夫ができるようにする。
環境に適したリボード製品の販売 (目標未達成)		
・市場・顧客情報の調査	○	展示会出展と二酸化炭素の排出量削減の提案を活用してさらに顧客のニーズの掘り起こしを行う。
・販路拡大	×	コロナ5類に伴う市場の活性化が期待されたが目標未達成に終わった。新年度からは新たな販売パートナーの力も借りて売り上げ増につなげたい

□環境関連法規等の遵守状況の評価の結果

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	遵守すべき要求事項	遵守評価
廃棄物処理法	保管基準の遵守、収集運搬・処分業者との適正な契約、マニフェストの交付・保存・確認・交付状況等報告書の提出	遵守
騒音規制法	指定地域内の特定施設の届出、規制基準の遵守	遵守
振動規制法	指定地域内の特定施設の届出、規制基準の遵守	遵守
家電リサイクル法	特定家電4品目の適正な事業者(家電販売店)への引き渡し	遵守
自動車リサイクル法	使用済自動車の適正な事業者(引取登録事業者)への引き渡し	廃棄実績なし
フロン排出抑制法	第一種特定製品(フロン類使用機器)の定期点検と記録及び漏洩防止、廃棄時のフロン類の回収	廃棄実績なし 点検遵守
自動車NOx・PM法	対策地区内で排気ガス規制に適合した自動車の使用	遵守
消防法	消火設備・火災警報設備の点検整備、避難設備の維持	遵守

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていることを確認しました。

なお、環境法規制等への違反、訴訟、環境上の苦情等も過去3年間ありませんでした。

□代表者による全体の評価と見直し・指示

当社は、良い地球環境や自然環境を次世代に残すための取り組みの大切さを社員全員が認識し、エコアクション21に取り組んで来ました。会社内設備は環境対策済みであり必然的に環境への負荷を減らすための事業活動はできていると考えています。

コロナが5類になり営業活動も正常化したことによるガソリン消費量の増加と大型機械FFGのリニューアルに伴う操作不慣れによる電力消費量の増加によりCO2排出量も5%増加したがコロナ前と比べて18%減少している。FFGの操作については問題なく出来るようになった為今後ロスの削減を進めCO2、廃棄物の削減につなげたい。

また、環境配慮型のリポード製品は市場の活性化が期待されたが微減となった。新年度からは新たな販売パートナーの力も借りて売り上げ増につなげたい。

但し、エネルギー価格の高止まり傾向は続いている為、エネルギー消費金額は増加傾向にあるので更なる削減活動を継続し経営と環境に貢献していきたいと考えております。

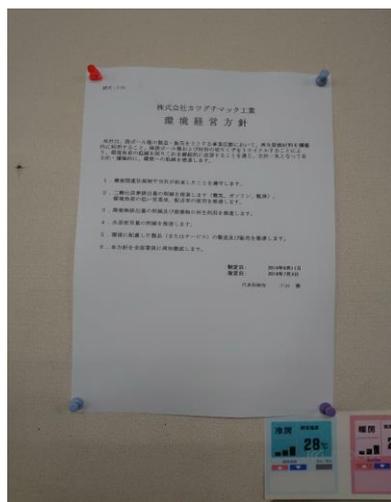
項目	見直し要否	見直し内容
環境方針	否	—
環境目標	否	—
環境活動計画	否	—
実施体制	否	—
その他	否	—

2024年5月31日
代表取締役 川口 徹

□環境経営活動の紹介



<ダンボールくずの圧縮機(リサイクル用)>



<エコアクション掲示板>



<排水処理装置>

LED照明



<省エネ>